

## 記念号の刊行にあたって

上田 泰

成道秀雄先生は2019年3月31日をもって成蹊大学を定年退職されました。ここに本号を先生の退職記念号として刊行し、先生の長年の功績に対して感謝の意を表したいと思います。

成道先生は略歴にありますように、1973年に成蹊大学経済学部経営学科をご卒業され、その後成蹊大学大学院経営学研究科に進学され、1982年に博士後期課程の単位を取得されました。他大学での勤務を経て、1989年10月には成蹊大学経済学部助教授として赴任され、1994年には教授に昇進されました。成蹊大学経済学部では教務委員長や経営学科主任を務められ、経済学部のみならず成蹊大学の発展に寄与されてきました。

成道先生は経済学部では主として会計学や租税法、税務会計に関する授業を担当されてきました。租税法や税務会計はどちらかというと専門色が強く、学生にとっては身近に感じにくい学問ではないかと思いますが、先生は温厚なご性格と分かりやすい語り口で学生たちに大変に慕われており、先生がご担当する授業にはいつも多くの学生が集まっていたように思います。また、先生は会計学や租税法の教育にはとても熱心でした。かなり以前のことになりますが「下級生の時に基本的な簿記をきちんと勉強していない学生が多い」と悩みを打ち明けていただいたことがありました。簿記や会計学の知識の重要性を誰よりも知る先生だからこそ、当時の学生の状況を心配されていたのだと思います。その後、成道先生にもご協力いただき、入門的な会計学の授業を複数クラス開講制にして学生の理解度を向上させるようにいたしました。先生のご助言のおかげで、経済学部の大半の学生が簿記の基本を理解して上級学年に進むという、今の経済学部の教育課程ができあがったのだと思います。さらに、大学院の経済経営研究科（ないし旧経営学研究科）では成道先生は税法関係の授業や演習を担当されてきました。先生が指導されてきた多くの大学院修了者が、現在、税理士などの職業会計人として社会で活躍されています。

成道先生は、税法や税務会計にかかわる多くの学会でご活躍をされてきました。特に税務会計研究学会では2015年より会長、また非営利法人研究学会では2013年より副会長の重責を担われておられ、この研究分野における日本の第一人者として知られています。また、略歴

にありますように、学会以外にも、多くの団体において評議員や委員、責任者などを務めてこられ、大きな社会貢献を果たされてきました。

このように成道先生の研究や教育に取り組む姿勢は、我々後進の教員にとってまことに見習うべき点が多いと思います。最後になりましたが、先生の長年にわたる成蹊大学経済学部へのご貢献に重ねて感謝申し上げるとともに、先生の今後のご健康と益々のご活躍を心からお祈り申し上げます。

(成蹊大学経済学部長)